

2006年4月3日

入社式挨拶

入社おめでとう。英気に満ちた若人を当社の仲間を迎えることを大変うれしく思います。当社の先輩として一言申し上げたい。

1．新たな成長を目指して

当社は、2005年度から新しい経営ステージに入り、強いコア技術に根ざしたスペシャルティ事業の積極拡大を目指している。当社の各事業は、創設124年の歴史の中で培われた高い技術力を基本として、激しい環境変化の中、時代に適応し、発展してきた。

これは時代に応じた技術革新への真摯な努力と、柔軟な組織能力が発揮されたからである。今後も時代に適応したスペシャルティ事業の拡大と、新事業の創出を加速していく。

2．自己革新の姿勢を忘れずに

当社では、教育制度による座学のカリキュラムも用意しているが、基本は、自ら今何を学ぶ必要があるのかを認識し、知識、技術の習得に努力することである。会社生活において日々経験することを大切にし、自己のナレッジ、ノウハウとして消化、蓄積することが基本であり、常に問題意識を持ち、その解決のために必要な知識を吸収することが自己革新の行動につながる。会社や他人から与えてもらうことを期待せず、自ら習得する姿勢と、環境の変化を敏感に悟り、自分を時代適応させる努力が大切である。

3．発想し行動する集団の一員として

時代環境は今後も激変するが、融通無碍^{ゆうづうむげ} (*1)に発想し行動できる能力が必要である。仕事における新たな発想は、現状に満足せず(現状否定)、問題意識を持つことが起点となる。また、常に感性を磨き「気付く力」を育てることで、その人の思考範囲や行動範囲が拡大する。これから経験する仕事の中では、多様な問題と直面し、その解決を求められることになる。常に問題解決能力が問われることになるが、それに応えるには基本的知識能力だけでなく、問題を分析、検討し、対策する各段階の発想と解決へのプロセスを展望する構想力が大切である。豊かな発想力とアグレッシブな行動力を日々培っていただきたい。

4．EQ(*2)を高める

ビジネス行動の中ではコミュニケーション能力が大切である。仕事では同僚、顧客など
と対話し、折衝する場面が多いが、十分なコミュニケーション能力がないと、相手を理解
させ納得させることはできない。特に部下を持つようになると、理解させるだけでなく行
動させる必要がある。このような場面で、コミュニケーション力を十分発揮できるかどう
かは、EQの高さによるところが大きい。

EQの基本要件は次の4点である。

- (1) 対話の中で自己の感情の動きを認識し、自己管理できる。
- (2) 対話の中で相手の感情の動きを認識し、理解できる。
- (3) 対話の中で自分と相手の双方の感情の動きを客観的に認識し、理解できる。
- (4) 自分の部下など、集団の感情を認識し、理解できる。

つまり、自分と相手の感情の動きを客観的に認識し、自己管理することが説得力を高め、
ひいてはリーダーシップを発揮することにつながる。

5．東洋紡人として責任ある行動を

「じゅんりそくゆう順理則裕」

「順理則裕」は、中国宋代の朱子学者、ていい程頤の言葉で、「道理に生きることが、すなわち繁栄に
つながる」という意味である。当社の創設に多大な貢献のあった渋沢栄一が座右の銘としていたこ
の言葉は、当社の基本理念として今日まで受け継がれてきた。

これは、企業人として倫理的価値観を尊重すべきことを説いており、今日の企業経営で重視さ
れているCSR(*3)の原点とも言える。当社はこの言葉を基本理念として経営ビジョンや経営方針を
展開している。私たちはこの基本理念をよく理解し、東洋紡人としてすべてのステークホルダーとの
接点において、常に責任ある行動を取らなければならない。

* 1...一定の考え方にとらわれることなく、どんな事態にも滞りなく対応できること。

* 2...Emotional Quotient、感情の知能指数。

* 3...=Corporate Social Responsibility、企業の社会的責任。

以上

東洋紡 取締役社長
坂元 龍三